

Book Review



インプラント周囲疾患のすべて Textbook of Peri-Implant Disease

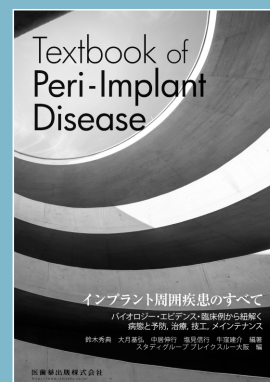
鈴木秀典・大月基弘・中居伸行・塩見信行・牛窪建介 編著／
スタディグループ ブレイクスルー大阪 編



Reviewer

和田誠大 Masahiro Wada
(大阪大学大学院歯学研究科)

A4 判, 244 頁
カラー
定価 19,800 円
(本体 18,000 円+税 10%)
医歯薬出版刊



インプラント周囲疾患は、想像以上の頻度で発症している。問題の根源は、顎骨にわれわれが設置した外来異物であるインプラントが原因、すなわち“Man-Made Disease”なのである。われわれの責務は、患者の生涯にわたり、インプラントが感染源となったり、口腔衛生管理の障害となることを避けることである。

この問題に明確に答えてくれるのが、本書『インプラント周囲疾患のすべて』である。発足して 10 年となるスタディグループ、ブレイクスルー大阪が 10 年間の集大成と位置づけて本当に素晴らしい書籍を発刊された。ブレイクスルー大阪は、歯科医師のみならず歯科衛生士や歯科技工士も参画し、“Maintenance-Oriented Implant Therapy”と“Practice-Based Research”の 2 つのコンセプトを掲げ、臨床研究デザインまでも突き詰める研究機関顔負けの集まりとのこと。

本書は、まずインプラント周囲疾患の総論から始まり、その組織像や細菌学/免疫応答の解説に取り掛かる。このように書くと、晦渋な内容に終始す

るかと思われるかもしれないが、現時点での最新のエビデンスを余さず紹介しつつも、小難しさを感じさせず、一息に読み進められる内容となっている。

その後、これまでに報告された発症に関係するリスクインディケーターの解説に続く。ここはぜひ時間をかけてお読みいただきたい。現在、口腔清掃状態や糖尿病などの全身疾患との関係、すなわち細菌感染が主原因という論調が多いなか、徹底的なまでに、これまでに報告されてきたリスクインディケーターを洗い出すとともに、補綴要因も含め中立的な視点から丁寧に潜考されている。インプラント周囲疾患は複合因子によって発症することは間違いなく、これらあらゆる因子を可能な限り勘案して臨床に臨むべきと改めて実感させられる内容である。

続いて、インプラント周囲疾患の検査・診断も見逃せない。これまでの診断基準を紹介しつつも、2017 年に改訂された新たな分類が詳細に説明されており、正確な診断におおいに役立つ情報となっている。本項では診断に用いられる検査方法については、クリニ

カルクエスチョン (CQ) に答える形で解説されており、豊富なイラストとともに明確な回答が準備されているのありがたい。

いよいよ後半は、インプラント周囲疾患の治療の実際にフォーカスしていく。バリエーションに富んだ臨床例が提示されているが、すべての症例に共通して、術前から術中、そして術後の評価に至るまで精確かつ詳細な記録がなされており、著者らの真摯な臨床への思いを感じさせられる。

最後のメンテナンスの項も忘れてはならない。方法論のみならず、著者らの医院で実践されているメンテナンス方法についても紹介されており、読者の先生方が明日からの実践に無理なく取り入れられる内容となっている。

ブレイクスルー大阪の代表である鈴木秀典先生が、冒頭に正しい情報のインプットとそれを実践するアウトプットの重要性に触れている。私も本書を熟読 (インプット) し、明日からの臨床に活かしたい (アウトプット) と思える、まさに「すべて」が詰まった必携書である。